



2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2025年11月14日

上場会社名　ムーンバット株式会社

コード番号　8115　URL　<https://www.moonbat.co.jp>

代表者　(役職名) 代表取締役・社長執行役員　(氏名) 鎌田 尚

問合せ先責任者 (役職名) 取締役・常務執行役員 管理本部長　(氏名) 山本 聡

半期報告書提出予定日　2025年11月14日　配当支払開始予定日　2025年12月1日

決算補足説明資料作成の有無　:　無

決算説明会開催の有無　:　無

上場取引所　東

TEL 075-361-0381

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2025年4月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	7,011	5.1	791	20.3	801	32.6	648	28.5
2025年3月期中間期	6,672	15.5	658	49.3	604	27.1	504	20.3

(注) 包括利益　2026年3月期中間期　669百万円　(39.6%)　2025年3月期中間期　479百万円　(11.9%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	143.94	—
2025年3月期中間期	111.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	9,618	5,971	62.0
2025年3月期	9,934	5,469	55.0

(参考) 自己資本　2026年3月期中間期　5,959百万円　2025年3月期　5,460百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	15.00	—	37.00	52.00
2026年3月期	—	20.00			
2026年3月期(予想)			—	30.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　:　無

2026年3月期(予想) 期末配当金の内訳　普通配当　20円00銭　140周年記念配当　10円00銭

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	11,600	2.9	550	21.7	550	17.3	450	22.9
								99.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　:　無

注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期中間期	4,774,719 株	2025年3月期	4,774,719 株
期末自己株式数	2026年3月期中間期	267,204 株	2025年3月期	266,985 株
期中平均株式数(中間期)	2026年3月期中間期	4,507,662 株	2025年3月期中間期	4,512,522 株

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当中間決算に関する定性的情報 (4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益及び包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が見られる一方、地政学的リスクの長期化、アメリカの関税政策の動向、物価の上昇による景気の減速が懸念されるなど、先行きは不透明な状況が続いております。

服飾雑貨業界におきましても、インバウンド消費の減速が一部で見られ、為替相場の変動、仕入コスト上昇の恒常化、物価上昇による消費者の節約志向の高まりなど、事業環境へのマイナスの影響が懸念されております。

このような経営環境の下、当社グループは2025年3月期から2027年3月期までの「中期経営計画」を策定し、成長戦略として、「専門店マーケットへの商品開発及びマーケティングの強化」、「直営店・小売事業の拡大に向けた新たな店舗戦略の展開」、「Eコマース事業の更なる拡大」、「国内外の新規販路開拓」の4つの施策を実行しております。また、その前提として、自社ブランドの育成・確立、人材投資の積極化による採算性、生産性の向上を目指し、各販路に対する最適な商品・人的配置、リスクとコストを意識したサプライチェーンの再構築と適時適切な仕入販売コントロールによる在庫の最適化、DX（デジタルトランスフォーメーション）の高度化・活用を含めた販売管理費のコントロールを推進しております。

業績につきましては、中期経営計画の着実な実行の下、当社グループにおいては、昨年に続く猛暑に対応した販売施策の推進、特に、専門店・Eコマースマーケットへの商品開発、マーケティング等のアプローチ強化も奏功し、春夏物の販売が好調に推移したことから売上高は前年同期を上回りました。商品・人員配置の最適化、プロパー販売の促進等による利益率の改善及び為替相場が前年同期より円高に推移したこと等により、損益面も売上増加に伴う販売関連経費及び人的資本投資に関わる人件費の増加を吸収し前年同期を上回りました。

その結果、連結売上高は70億11百万円（前年同期比5.1%増）、連結営業利益は7億91百万円（前年同期比20.3%増）、連結経常利益は8億1百万円（前年同期比32.6%増）となり、親会社株主に帰属する中間純利益は6億48百万円（前年同期比28.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

①身の回り品事業

身の回り品事業につきましては、昨年に続く猛暑を背景に、春夏物については、専門店を中心に各販路における販売が好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。各販路に対応したきめ細かい商品開発・提案、プロパー販売の促進等の販売施策を推進し、為替相場が前年同期より円高に推移したこともあり、売上増加に伴う販売管理費等の増加も吸収し、セグメント利益も前年同期を大幅に上回りました。

洋傘部門につきましては、昨年に引き続き猛暑が到来し、パラソルマーケットが活況を呈したことに加え、専門店・Eコマースマーケットへの商品開発、マーケティング等のアプローチの強化も奏功し、売上高は前年同期を上回りました。

洋品部門につきましては、一部インポートブランドの導入・販売に注力いたしましたが、当期中を通じ比較的气温が高い状態が続いたことから、洋品全体として、販売が振るわず売上高は前年同期を下回りました。

帽子部門につきましては、昨年12月のインバウンドを中心に人気を博したライセンスブランドの取扱終了に伴うマイナス影響を自社ブランドの販売展開により一部カバーしたものの、売上高は前年同期を下回りました。

毛皮・宝飾品部門につきましては、エコファーマーケット等のサステナブルな提案、新規商材の開拓、百貨店外商ルートの活用及び催事展開にも注力したことから、売上高は前年同期対比微増となりました。

以上の結果、身の回り品事業の売上高は67億61百万円（前年同期比4.6%増）、セグメント利益は、7億81百万円（前年同期比18.9%増）となりました。

②情報サービス事業

情報サービス事業につきましては、業務のIT化、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進ニーズの高まりを捉え、システム開発受託・販売、保守・メンテナンス等に引き続き注力した結果、売上高は前年同期を上回りました。損益面も人件費、販売管理費等の低減もあり、前年同期を上回りました。

その結果、売上高は、2億50百万円（前年同期比18.0%増）、セグメント利益は、20百万円（前年同期比480.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ3億13百万円減少して96億18百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金が2億51百万円増加したこと、受取手形、売掛金及び契約資産が4億82百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ8億18百万円減少して36億46百万円となりました。この主な要因は、短期借入金が7億円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べ5億2百万円増加して59億71百万円となりました。この主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益を6億48百万円計上したこと、及び剰余金の配当を1億66百万円実施したこと等に

よるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、短期借入金の純減、売上債権及び契約資産の減少等により、前連結会計年度末と比べ2億51百万円増加（前年同期は8億39百万円増加）して15億94百万円（前年同期比15.4%減）となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、12億82百万円の収入（前年同期は11億35百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前中間純利益を8億1百万円計上（前年同期は6億4百万円計上）したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億28百万円の支出（前年同期は84百万円の収入）となりました。これは主に投資有価証券の取得による支出が1億4百万円（前年同期は3百万円の支出）となりましたこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、8億98百万円の支出（前年同期は3億79百万円の支出）となりました。これは主に短期借入金の純減額が7億円（前年同期は19百万円の純減）となりましたこと、及び配当金の支払額が1億64百万円（前年同期は90百万円の支払）となりましたこと等によるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点では、2025年5月15日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年 3 月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,343,187	1,594,911
受取手形、売掛金及び契約資産	1,503,077	1,020,854
商品及び製品	2,587,955	2,529,452
仕掛品	4,721	2,206
原材料及び貯蔵品	53,523	33,424
返品資産	250,422	192,558
その他	245,407	204,333
貸倒引当金	△7,000	△8,000
流動資産合計	5,981,295	5,569,742
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	826,359	783,551
土地	1,677,848	1,677,848
その他 (純額)	81,374	99,256
有形固定資産合計	2,585,582	2,560,656
無形固定資産		
のれん	47,115	41,226
その他	320,047	307,000
無形固定資産合計	367,162	348,226
投資その他の資産		
その他	1,028,801	1,168,225
貸倒引当金	△28,201	△28,201
投資その他の資産合計	1,000,599	1,140,023
固定資産合計	3,953,344	4,048,906
資産合計	9,934,639	9,618,649
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	542,989	483,446
電子記録債務	124,143	109,955
短期借入金	2,200,000	1,500,000
1年内返済予定の長期借入金	23,268	134,771
未払法人税等	91,638	159,578
賞与引当金	103,186	111,176
返金負債	398,393	316,356
その他	435,974	411,697
流動負債合計	3,919,594	3,226,980
固定負債		
長期借入金	123,137	—
退職給付に係る負債	340,983	342,940
その他	81,189	76,936
固定負債合計	545,309	419,876
負債合計	4,464,904	3,646,857

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	2,856,206	2,856,206
利益剰余金	1,608,016	2,090,049
自己株式	△154,415	△154,756
株主資本合計	5,309,806	5,791,499
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	65,795	99,763
繰延ヘッジ損益	15,376	4,137
為替換算調整勘定	56,055	52,647
退職給付に係る調整累計額	13,089	11,262
その他の包括利益累計額合計	150,316	167,810
非支配株主持分	9,612	12,481
純資産合計	5,469,735	5,971,791
負債純資産合計	9,934,639	9,618,649

(2) 中間連結損益及び包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	6,672,719	7,011,320
売上原価	3,750,203	3,855,378
売上総利益	2,922,515	3,155,942
販売費及び一般管理費	2,264,411	2,363,967
営業利益	658,104	791,974
営業外収益		
受取利息	1,092	1,884
受取配当金	2,675	3,282
為替差益	—	18,451
不動産賃貸料	21,079	21,256
その他	2,045	2,242
営業外収益合計	26,892	47,117
営業外費用		
支払利息	9,780	14,706
為替差損	52,589	—
不動産賃貸原価	11,231	11,268
投資有価証券評価損	—	10,830
その他	7,123	1,031
営業外費用合計	80,725	37,836
経常利益	604,272	801,254
税金等調整前中間純利益	604,272	801,254
法人税、住民税及び事業税	90,668	134,953
法人税等調整額	7,617	14,785
法人税等合計	98,286	149,739
中間純利益	505,985	651,515
(内訳)		
非支配株主に帰属する中間純利益	1,102	2,695
親会社株主に帰属する中間純利益	504,883	648,819
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14,788	34,140
繰延ヘッジ損益	△3,167	△11,239
為替換算調整勘定	△4,211	△3,407
退職給付に係る調整額	△4,517	△1,826
その他の包括利益合計	△26,685	17,667
中間包括利益	479,300	669,183
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	478,972	666,314
非支配株主に係る中間包括利益	327	2,868

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	604,272	801,254
減価償却費	78,776	79,497
のれん償却額	5,889	5,889
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△5,535	△668
賞与引当金の増減額 (△は減少)	155	7,990
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	—	1,000
受取利息及び受取配当金	△3,768	△5,166
支払利息	9,780	14,706
受取賃貸料	△21,079	△21,256
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	10,830
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	596,500	480,299
棚卸資産の増減額 (△は増加)	181,054	80,437
返品資産の増減額 (△は増加)	154,829	57,863
前渡金の増減額 (△は増加)	△45,828	△250
未収入金の増減額 (△は増加)	5,830	9,762
仕入債務の増減額 (△は減少)	△182,092	△71,576
未払金の増減額 (△は減少)	△61,576	△39,028
前受金の増減額 (△は減少)	7,487	15,261
未払消費税等の増減額 (△は減少)	55,384	△13,546
返金負債の増減額 (△は減少)	△225,155	△82,037
その他	32,054	28,858
小計	1,186,981	1,360,121
利息及び配当金の受取額	3,794	5,156
利息の支払額	△10,852	△11,829
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△44,598	△71,150
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,135,323	1,282,297
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△3,163	△104,038
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	91,019	—
有形固定資産の取得による支出	△18,270	△32,082
投資不動産の賃貸による収入	22,206	21,470
その他	△7,210	△14,217
投資活動によるキャッシュ・フロー	84,582	△128,868
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△19,574	△700,000
長期借入金の返済による支出	△200,431	△11,634
自己株式の取得による支出	△27,226	△340
配当金の支払額	△90,312	△164,872
リース債務の返済による支出	△42,288	△21,412
財務活動によるキャッシュ・フロー	△379,832	△898,259
現金及び現金同等物に係る換算差額	△630	△3,445
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	839,443	251,724
現金及び現金同等物の期首残高	1,044,841	1,343,187
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,884,285	1,594,911

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 及び包括利益 計算書計上額 (注) 2
	身の回り品 事業	情報サービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,460,816	211,902	6,672,719	—	6,672,719
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,888	1,888	△1,888	—
計	6,460,816	213,790	6,674,607	△1,888	6,672,719
セグメント利益	657,326	3,600	660,927	△2,822	658,104

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間の取引消去額及び各報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「情報サービス事業」セグメントにおいて、セブンシステム株式会社の株式を新たに取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当中間連結会計期間においては58,894千円であります。なお、発生したのれんの金額は、暫定的な会計処理の確定が反映されております。また、暫定的な会計処理の確定による金額の変動はありません。

II 当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 及び包括利益 計算書計上額 (注) 2
	身の回り品 事業	情報サービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,761,233	250,086	7,011,320	—	7,011,320
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	55,544	55,544	△55,544	—
計	6,761,233	305,631	7,066,864	△55,544	7,011,320
セグメント利益	781,632	20,893	802,526	△10,552	791,974

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間の取引消去額及び各報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。